

ウィザス

「ウィザス」はウィズアス = with us "共に生きる—男女共生社会" の理念を表しています。

特集 知ってる? アンコンシャス・バイアス

寄稿 「ホンマかいな精神」で考える

～ 無意識の偏見 (アンコンシャス・バイアス) と
メディアリテラシー ～

特定非営利活動法人 S E A N 理事長
小川 真知子 さん

今号の特集で取りあげているように、無意識 (アンコンシャス) の偏見 (バイアス) は過去の経験や知識、周囲の環境などから刻みこまれます。多くの情報がメディアを通してやってくる現代では、メディアから受ける影響は大きく、知らず知らずのうちに根拠のない思いこみを信じていることがあります。たとえば「健康と保健医療に関する世論調査」(2017年東京都)によれば、健康や医療に関する情報の入手方法はテレビが78%、インターネットとSNSが50%でした。コロナ禍を生きる私たちには、ヘルスリテラシー (健康に関する知識やそれを活用する能力) とともに、メディアリテラシーが必要になってきます。

メディアリテラシーとはメディア (テレビ、雑誌、インターネットなど) から流れる情報をそのまま信じるのではなく、批判的に判断、選択して使い、メディアに声を届けたり、自分で情報を発信することをいいます。大事なのは批判精神です。私は「ホンマかいな精神」と呼んでいます。メディアから流れる情報はすべて制作者によって構成され、商売 (スポンサー) と密接な関係があるということを意識しながらメディアとつきあう。世間では当たり前と言われていても、鵜呑みにしないで「ホンマかいな」と疑ってみる。ここではアンコンシャス・バイアスの中の「ジェンダー・バイアス」をとりあげ、メディアリテラシーを意識して、ジェンダーに気づき、対処する方法を考えます。

ジェンダー・バイアスのひとつに性別役割分業があります。人気ドラマ「半沢直樹」の主人公夫婦は仕事にまい進する夫と献身的に支える妻という設定でした。仕事という「男の社会」と、家庭という「女の社会」は交わることはなく、男は外で闘い続け、女は内ですっきり癒し続ける…と性別で役割が描き分けられていました。メディアはものの考え方や価値観を伝え、現実を構成する力があります。現代の時代劇といわれ、カリカチュアライズ (パロディ

化) されてはいますが、ドラマでのイメージの積み重ねが無意識の偏見につながっていくといえます。

イメージに縛られず、無意識の偏見に対処するにはどうすればいいのでしょうか。「ホンマかいな精神」で考え、情報発信することです。昨年末、兵庫、京都、岡山の高校生たちがあるコンビニエンスストアの総菜シリーズ「お母さん食堂」の名前を変えたいと、インターネットで署名活動を行いました。ジェンダーについて学び、「男性は仕事、女性が家事」という考えの弊害を知り、『お母さんが食事を作るのが当たり前』という意識を植えつけてしまう『商品名』は、子どもをはじめすべての人に対し、アンコンシャス・バイアス (無意識の偏見) を深刻にする原因にもなります。「性別によって役割が決まったり、何かを諦めたりする世の中になる可能性が強くなることはとても問題」と署名活動を始めたのです。彼女たちの目標の1万筆には達しませんでした。7,268筆の賛同を得て終了しました。

私は高校生たちの批判精神にエールを送ります。批判と非難は違います。批判とは批評し判定することです。データを調べ、現状を分析、批評し、影響力を持つ企業に「名前を変える検討」を提案したのです。情報発信し対処することで状況を変えていくことができます。たとえ「お母さん食堂」の名前は変わらなかったとしても、私たちにこうして考える機会を与えてくれました。この署名活動を知ることによってジェンダーに気づく人、自分にはなにかができるか考える人がきつと出てきます。私自身、これまでの活動を通して、メディアから流れるジェンダー・バイアスに違和感を感じる人が情報発信することで、社会の意識が変わり、制度が変わったと実感しています。

Profile

NPO法人 S E A N 理事長。84年より20年間「コマーシャルの中の男女役割を問い直す会」の世話人をつとめた。兵庫県、西宮市の男女共同参画センターに勤務後、現職。各地で講演、講座、企業向け研修を実施している。



特集 知ってる?アンコンシャス・バイアス

ここ数年、企業や組織においても注目をされている「無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）」という言葉を見たり、聞いたりしたことがあるでしょうか。今回は、性別にまつわる「無意識の偏見」の具体的な事例の紹介を通じて、その重要性について考えてみました。



無意識の（アンコンシャス）偏見（バイアス）とは？

アンコンシャス・バイアス（unconscious bias）とは、過去の経験や周りの環境、インプットされた情報などから、自分自身では気付かないうちに身についた、ものの見方や捉え方の偏りを指し、「無意識の偏見・思い込み」と訳されます。

アンコンシャス・バイアスは誰もが持っているもので、本来良い悪いというものではありません。しかし、本人に自覚が無いため、偏見や思い込みが存在していることに気が付きにくいという特徴があります。場合によっては自分の先入観や無意識な発言が、人間関係に影響を及ぼしてしまう可能性があります。偏見の対象は性別、年齢、人種、国籍と様々な事柄に対してありますが、今回は性別に関する6つの具体的なアンコンシャス・バイアスを取り上げてみました。

CASE 1 男性は一家の大黒柱 女性は夫を支える役目

夫は家族を養うため仕事をし、妻は夫が心置きなく働けるよう家事・子育てをし家庭を守る。よく聞く性別役割分業です。しかし、昭和55年以降共働き世帯は増加しており、昨今では女性がフルタイムで働くことは珍しくなくなっています。そのような状況の中で家事・育児を女性一人で担うのは非常に負担が大きく、現実的ではありません。

共働き世帯に限らず、男性が家事・育児に関わることは非常に重要です。妻がいないと「何をしたら良いかわからない」状況にならないためにも、夫婦で家事・育児を分担して行う必要があります。人生100年時代が身近になった今、誰しも一人になった時、身の回りのことが年齢なりにできるかどうかで、人生の豊かさが変わってきます。妻も夫もできるだけ自立した生活ができるように、それぞれが努力していきたいものです。



CASE 2 女の子は赤やピンク 男の子は青や緑が似合う

出産祝いや入学祝いを思い浮かべてください。生まれてくる赤ちゃんや入学する子どもの性によって、お祝いの品の色を決めていませんか。

一般的にピンクは優しい、可愛い、柔らかいなどのイメージ、青はクールで知的なイメージといわれています。無意識のうちに女の子には優しさやかわいらしさを、男の子には冷静さ・聡明さを備えてほしいというような理想を持っているかもしれません。そのような価値観と色を結びつけることが無意識の偏見だといえます。女の子だからピンク色、男の子だから青色が似合うのでしょうか。

似合う色は性別に関係ありません。また好きな色も人それぞれで、性で決まっているわけではないのです。本当に似合う色は個性を尊重して考えてみませんか。



CASE 3 女性ならメイクは必須 男性がネイルアートは変

女性はスカートで可愛らしく、男性はマッチョでたくましく、という性による見た目のイメージは、根強い思い込みのひとつですね。最近は学生の制服が少しずつ変化し、ズボンやスカートを選べる学校が増えてきました。それでも性別への見た目の固定観念は根強く、女性は人前に出るときにメイクをしないと礼儀を欠くとか、男性は夏の暑い中でもスーツにネクタイでなければ失礼だというケースもいまだにあります。男性がネイルアートを爪に施すと変、と感じる人もいます。そうした思い込みに対し、女性がハイヒールを強制される職場で、痛い靴に苦痛を感じながら働くことに抗議の声を挙げたのが、「#KuToo」運動です。髪型や服装、メイク。自分を表現し、相手に敬意を表すための手段は、性別にとらわれず、もっと自由であるべきではないでしょうか。



CASE 4 意見を主張する女性は 自己顕示欲が強い

「自己顕示欲」とは、周囲の人々から注目され、認められたいという欲求のことです。ごく自然な欲求ではありますが、過度な自己主張という否定的なニュアンスも含まれています。男性が自分の意見をはっきり言う場合、「ハキハキと自分の意見を言うことができ素晴らしい」ととらえられるのに対し、女性は同じことを言っても、感情的だとか、自己顕示欲が強いととらえられてしまうことが多いのはなぜでしょうか。

その根底には、女性は自分の意見を言わない方がおしとやかで良いというアンコンシャス・バイアスが存在しているからではないでしょうか。性別に関係なく、自分の意見をきちんと相手に伝えることは大切です。また重要なのは、性別に関わらず、個人として意見が尊重され、意見が言いやすい風通しの良い環境を整えることです。



CASE 5 育児中の女性は仕事の 負担を軽くした方がよい

一見、思いやりのある言葉のようですが、女性は仕事より子育てを重視すべきという固定観念とも言えます。一人で子育てをしている人もいれば、夫婦で協力しながらする人、また両親に手伝ってもらう人もいます。子育ては、家庭により多種多様な方法があることを考えると、「子育て中の母親」であるという理由だけで仕事の負担を軽くすると、キャリアアップしたい女性のやる気をダウンさせることになりかねません。

同様に「育児休暇を取得する男性は仕事への意識が低い」という思い込みは、「男性は仕事が大事。育児や介護は男性がするものではない」という固定観念につながります。男性だから仕事に重きを置いた生活をすべきという考え方では、仕事も家庭も充実させたい人のモチベーションを下げってしまうことになるでしょう。



CASE 6 女性はリーダーや 管理職になりたがらない

女性従業員に「管理職を目指してみないか」と話した時、「私には無理です」と断られたとしたら、その真意は何でしょうか。本人に上昇志向がないのではなく、仕事の責任が重なることに不安を感じ、現実的に仕事と家事・育児を両立できるのかと自信を持っていないからかもしれません。その場合、キャリアアップを望む女性には、不安を払拭するアドバイスをを行い、環境を整えることで、本人もその機会を活かす気持ちになる可能性があります。周りも女性を育て、支える心構えが必要でしょう。

これは、企業に限らず、社会のあらゆる場面にも当てはまります。学校では生徒会役員を女子生徒が、PTAでは会長を母親が務めることは珍しくありません。どの場面でも女性がリーダーになるためには周囲の協力が必要であり、性別に関係なく誰もが活躍できる仕組みを整えることが重要です。



自分の中の「無意識の偏見」を受け入れて、次に進もう

アンコンシャス・バイアスは、本人に自覚が無く、悪意もないため、差別や偏見であることに気が付きにくいものです。問題は、自分自身の価値観が偏見であることを認められないことです。長年かけて知らず知らずのうちに植え付けられたものなので、年齢を重ねた人ほど、偏見を持っていることを自覚しづらく、また他人から指摘されても簡単には納得できないことも多いでしょう。しかし価値観が多様化している今、無自覚の偏見から発した言葉や行動が誰かを傷つけたり、モチベーションを下げているかもしれません。アンコンシャス・バイアスを無くすることは難しいかもしれませんが、今まで持っていた価値観が偏見であることに気付くことが、まずは第一歩です。そして柔軟な心や相手の立場に立った気持ちで人に接し、発言して行動する、勇気ある一歩を踏み出してみませんか。

私にもある? 「無意識の偏見」

作 A・S



お知らせ 男女共同参画センター講座・事業

男女共同参画センターでは様々な講座や事業を実施しています!
 詳細は芦屋市広報もしくはホームページ等をご確認ください★

✿ 国際女性デー記念事業 映画上映会

3月13日(土) 午前10時～・午後1時30分～(2回上映)
 上映作品「ビリーブ 未来への大逆転」※120分・字幕

✿ ウィザスあしや BOOK WEEK2021

3月13日(土)～19日(金)

センター1階の「情報コーナー」にて、様々なテーマ別特集展示を行います! 期間中は絵本講座や親子で楽しめるイベントも実施予定です!



芦屋市男女共同参画センター
 講座ページに入ります

✿ ウィザスあしやフェスタ2021

5月15日(土)、17日(月)～21日(金)

男女共同参画センター登録グループによる様々なワークショップを開催します。15日(土)はチャリティーバザー等のイベントも実施予定です!

編集後記

「ガラスの天井」の誤用が話題になった。言葉の意味は、職場などでの昇進を阻む、目に見えない制限のこと。4年前ヒラリー・クリントンが大統領選で負けた時に言った。多くの能力ある女性がガラスの天井のために要職に就けないでいる。女性としてその悔しさを何度も体験してきたからこそ、声を大にしてこう言いたい。「言葉は意味を考えて正しく伝えていこう」と。(村上)

秘密厳守

女性相談

面接相談

無料相談・予約専用電話 0797-38-2022【要予約】

心の悩み相談 (1人50分)

3月5日・12日・26日
 4月2日・9日・23日・30日
 5月7日・14日・28日
 いずれも金曜日
 3月:午前10時～午後4時
 4・5月:午前11時～午後4時

家事相談 (1人50分)

3月19日(金)
 4月16日(金)
 5月21日(金)
 いずれも
 午前11時～午後4時

法律相談 (1人30分)

3月6日(土)
 4月7日(水)
 5月8日(土)
 いずれも
 午後2時～4時

女性活躍相談 (1人50分)

3月9日・16日・23日・30日
 4月13日・20日・27日
 5月18日・25日
 いずれも火曜日
 午後1時～4時(別日も可)

★ 一時保育あり・無料(事前予約必要)

★ 相談日は現時点での予定です(随時変更あり)

ウィザス

No. 104

令和3年3月発行(春号)

企画・執筆

市民編集ボランティア

編集・発行

芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

芦屋市男女共同
 参画センターHP



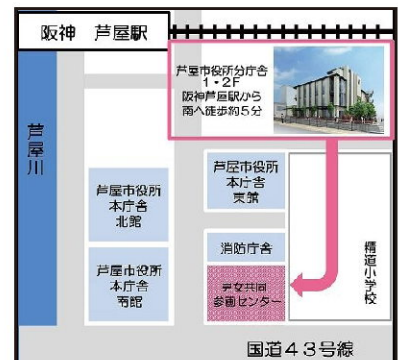
〒659-0064 芦屋市精道町8番20号(市役所分庁舎1・2階)

TEL: 0797-38-2023 / FAX: 0797-38-2175

Eメール: josei-ce@city.ashiya.lg.jp

■開館: 月曜日～土曜日・午前9時～午後5時30分

■休館: 日曜日・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)



配偶者やパートナーからの暴力に悩んでいるかたへ ひとりで悩まず、お電話ください。【秘密厳守】

芦屋市DV相談室 TEL: 0797-38-9100 月～金(祝日、年末年始を除く) 9:00～17:30(12:00～12:45を除く)